

お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわがっちゃらブックレット

OSANPO

～6歩目～





■鯖江マレットゴルフクラブ…4p



■Def i…6p 写真提供:Def i



■N・P・Oのひとびと 第2回
「NPO(のっぽ)えちぜんのひとびと」…8p



■親子 ロボット体験教室…10p



■さばえ・ロボット・クラブ
Roboject…12p



■鯖江市子ども会育成連絡協議会…14p
写真提供:鯖江市子ども会育成連絡協議会



■チラシ&ポスターで振り返る
さばえNPOサポートのH28年度…16p



■編集後記座談会
…18p

目次

団体紹介①「鯖江マレットゴルフクラブ」	4p-5p
団体紹介②「Def i (デファイ)」	6p-7p
特集「N・P・Oのひとびと」第2回 「NPO(のっぽ)えちぜんのひとびと」	8p-9p
イベント報告「親子 ロボット体験教室」	10p-11p
団体紹介③「さばえ・ロボット・クラブ Roboject」	12p-13p
団体紹介④「鯖江市子ども会 育成連絡協議会」	14p-15p
巻末特集「チラシ&ポスターで振り返る さばえNPOサポートのH28年度」	16p-17p
編集後記座談会	18p-19p

『OSANPO』について

■ぶらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、「OSANPO」のコンセプトです。
■タイトルに隠れた「NPO」(非営利で活動する組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…



生まれなる楽しさ マレットゴルフ



さばえ 鯖江マレットゴルフクラブ

まちづくり 福祉 文化

毎朝のように、有定橋近くの河川緑地に響く、軽快な打撃音！
この、なんとも心地良い音は、あるスポーツを愛する皆さんによつて奏でられています。

『マレットゴルフ』…比較的、年輩のプレーヤーが多い競技ですが、勝負でも技術でも、多くの人を熱くさせるパワーを持っています。
市内にいくつがあるグループの中から、結成21年目を迎えた「鯖江マレットゴルフクラブ」をご紹介します。

『福井県生まれの ニュースポーツ』

『マレットゴルフ』とはスティック(クラブ)とボールを使って、少ない打数でのカップインを競うスポーツで、良く知られたゴルフと同じようなルールだと思えばイメージしやすいかもしれません。

福井県で生まれましたが、今では全国に多くの愛好者がいます。
『マレット』は『木槌』の意味で、スティックの先端がよく似た形をしているのが特徴。



▲スティック

基本的にスティックとボールがあれば気軽に始められるスポーツで、県内の競技人口は約2000名、鯖江は約200名。

福井運動公園には『マレットゴルフ発祥の地』の記念碑もあるそうです。

『朝練でつながる』

「鯖江で気軽にマレットゴルフを楽しめるクラブを作ろう！」と『鯖江マレットゴルフクラブ』が発足したのは1996年(平成8年)。現在も、発足時とほぼ変わらない88人のメンバーで活動しています。

何よりその基盤となっているのが、朝9時から約2時間かけての毎日の練習。悪天候でなければ少しの雨でも誰か彼かが集まります。

そこに行けば、特別な約束をしなくても仲間に出会え、挨拶を交わし、当たり前のようにコースに出る。スポーツを核にした集まりとはいえない。お互いの人生に染み込んでいるようなこの距離感にはナカナカ貴重です。

そこには、ただの愛好家グループを超えた「コミュニティ」としてのクラブの姿が見えるような気がしました。

『成績にもこだわらる』

クラブの月例会をはじめ、一年のうちには、全国大会や各地の大会にもメンバーたちが参加し、なかなかの成績を上げています。

2016年には、松岡町で開催された『40周年マレットゴルフ発祥地大会』に参加した他、福井県民スポーツ祭でメンバーが優勝するなど、強豪選手を輩出していることでも知られているとのこと。

ただ楽しく試合をするだけでなく、勝敗にもこだわり、楽しさも悔しさもしっかり受け止める。

それが、仲間同士の関係にも絶妙なスパイスとなって、より豊かなクラブの形を作っているのかもしれない。



▲今回お話を伺った4人の皆さん

『競技人口を増やしたい』

有定橋付近の鯖江市のマレットゴルフ場は全36ホール。景色も空気も良い環境で、2時間ほどで回ればなかなかの運動にもなるオススメのコース。

みんなでゴミ拾いをし、時には自分たちでコースの整備もします。そんなホームグラウンドでプレーするクラブの目標のひとつは、もっと競技人口を増やすこと。

せっかく恵まれた土地にいるのだから、マレットゴルフの魅力をもっと多くの人に伝えたいと思う気持ちは、とてもわかります。

年に一回、ビギナー向けの講習会を開くのもその努力のひとつ。
実際、一度体験することでその魅力に気づき、入会する人もたくさんいるそうです。

会場近くの駐車場不足がハードルですが、マレットゴルフの魅力のアップと、地域の活性化につなげたいというのも夢のひとつです。

また、より若い層の仲間を増やすことも目標です。他のクラブには20歳代のメンバーもいるそうですから、きっかけさえあれば、これは思ったよりも実現が近いかもしれませんね。

『結局、楽しいからだね』

最後に、どうして20年以上も続いているのか質問したところ、迷わず返ってきたのが「マレットゴルフそのものが、とにかく楽しいからだね。」との皆さんの答え。

簡単そうで難しい。体に無理はかけすぎないが、世代を越えてチャレンジできるゲーム性がある…
きっと、マレットゴルフに出会わなかったら、メンバーのかなりの人は、今とは全然別の人生を送っていたに違いありません。

「仲間が宝です。」と生真面目な笑顔で言い切った山本さんの言葉に、その全てが凝縮されていました。



2時間ほどの取材でしたが、皆さんとにかくお元気！
見習わないといけないなあと思いつつ、まずは体験してみようかな？

クラブでは、随時入会を受付けています。
興味を感じた方は、さばえNPOセンターでもおとりつき可能です。
あ、それより、天気の良い朝に、有定橋付近のゴルフコースに顔を出されるほうがオススメかも☆



▲ナイスショット！



▲会費で用意する賞品
これもモチベーションアップのための大切な工夫のひとつ

〒916-0057 鯖江市有定町

基本データ

正会員募集中!

- 代表者…西川 皓造
- 活動開始…1996年
- 正会員数…88名(2017年3月現在)
- 賛助会員…なし

◎活動目的
マレットゴルフを通じ、メンバーの健康増進ならびに互いの交流を図り、地域社会全体の健康にも寄与すること。

さばえの子育てを

楽しくしたい！

親子で過ごす『今』という時間を大切に。そんな素敵な理念のもとに、2015年12月から親子支援活動を続けている団体、Defi(デフィ)。

ウキウキするイベントを、次々と企画していくアイデアとバイタリテイの秘密はどこにあるのでしょうか？

代表の西野有香さんのお話で、そのナゾが解けるかも？

『気負わない☆』

『Defi』という言葉は、フランス語で『挑戦』。

『でも、『挑戦』や『チャレンジ』と聞くと思わず気負いしてしまうこともありそうに思えちゃって。』

それとは少し違ったニュアンスで、新しい何かを取り入れつつ、もっと鯖江の子育てを楽しくしたい・応援したいと思ってこの名前にしたんです。』

そうニッコリ笑顔で語る西野さん。『Defi』には、『親として見守る』だけでなく、『子どもと一緒に参加しよう！』という気持ちも込められているとのこと。なるほど。

とにかく楽しいことが大好きな西野さんの家族。活動のきっかけも、そんな『楽しい』子育てイベントに、ママ友たちを誘いたい！共有したい！...との気持ちからだったそうです。

『楽しさ+α!』

これまでに開催されたイベントは、

まさに多種多様。

春はボーリング大会、夏は流しそうめんや水鉄砲サバイバルゲーム、秋は焼き芋にハロウィンの仮装行列、冬はクリスマスパーティーと、大人も子どもも楽しめるイベントばかり。

元氣いっぱい西野さんが発案・勉強し、そこから周りのみんなをどんどん巻き込んでいき、肉付けをしていくのがいつものスタイル。

ただ参加するだけではもったいない。もっと思い出に残る貴重な体験を企画には小さな『Defi』挑戦が散りばめられています。

流しそうめんは、なんと竹を切るるところからスタート。節を落として台を作り、みんなで組み立て、試行錯誤の結果食べる味は格別です。

ハロウィンの仮装行列も、地区を練り歩いて交番や子ども110番のお宅を回ります。

初めて尋ねるお家や知らない人に、子ども達も最初はドキドキ。でも、どこに駆け込み出来るポイントがあるのか、どんな人が住んでいるのかを親子で体験することがとても大切。

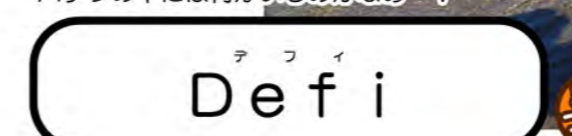
手作り流しそうめん大会で竹のラシ抜き作業中！(2016.7.31.)



▼なかなかのインパクト！ハロウィンふれあいウォーク in ゆたか(2016.10.22.)



Defiフェスティバルで海水浴(2016.8.16.)▶



万が一に備えての防犯意識も、自然と身に付きます。



▲これまでの軌跡を語る西野さん

また、年に数回開かれる「にじいろ子育てワールドカフェ」も大きなイベントのひとつです。

毎日子育てをする中で感じる、疑問や悩み。仕事と子育ての両立ってみんなどうしているんだろう、園や学校のことって誰に相談していいのかわからない...。

そんな子育て世代が抱える不安や情報を気軽にシェア。お菓子を食べながら、子育ての先輩や同じ悩みを持つお父さん・お母さんとおしゃべりすることで、新しい方法の発見や解決への道が見つかることもあるそう。

そして、もちろんこのカフェにも、ちょっとした『Defi』が隠れています。

みんなで悩みとアドバイスを付箋に書き出し・貼り付けていく簡単なワークショップ、「災害時、子どものために出来ること」(子育て家族の避難に

役立つ情報)や「一緒に成長！言葉かけの魔法」(コーチング)などのプチ勉強コーナーが用意されていて、楽しみながためにとなると大好評。

毎回内容が変わり、一人でもお子さん連れでも参加しやすい工夫がいっぱいなので、思わずちょっとお茶をする感覚で覗いてみたくなります。

『関わって、つながって、みんなのイベント』

紹介したような「魅力的な企画」はもちろん大切。でも、西野さんが心に留めていることがもうひとつあります。それが、参加者に企画や運営のどこかに『関わって』もらうこと。

「当日参加するだけじゃなくて、準備や運営段階でも何か担当してもらおうよ」とお願いするんです。

そうすると、イベントが「自分のもの」だって感じてもらえるし、その気持ちが集まって「みんなのイベント」になっていくんですよね☆

そうやって『自分ごと』として参加してくれることが、持続可能(サステイナブル)な関わり方をしてもらえる大切なポイントなのかもしれません。

市民活動をしていくと、極力負担をかけないよう気をつかうこと。仲間を大事に思うあまり、極力負担をかけないよう気をつかうこと。それを嬉しいと思う人もいます。それが、『関わるチャンス』を奪ってるのかも...

そう思うと、これは、なかなか奥の深いテーマみたいですね。

これからも色々なイベントを計画している『Defi』。

西野さんが「まだ内緒なんですけど」と、チラリと教えてくれた企画もとっても楽しそう！(でも、この誌面では明かせません：ゴメンナサイ。)

思わず参加したくなるような内容の発想力と、実現への行動力は、まさに工夫上手でたくましいお母さん。

これからも、沢山の人を巻き込んで地区を越えて、世代を越えて、多くの家族の笑顔と絆を結んでいってくださる素敵な予感がします。



▲Defiフェスティバル～内気改善プロジェクト～でのドッジボール大会(2015.7.20.) 写真提供：Defi

〒916-0076 鯖江市下氏家町
TEL:090-6816-8483
http://Lien-Projet.jimdo.com/
defi.8.jp@gmail.com

●代表者...西野有香
●活動開始...2015年12月1日
●正会員数...32名(2017年1月現在)
●賛助会員...なし

◎活動目的
親子で挑戦して楽しめるイベント等を企画・運営し、親子や家族の絆、子どもたちの豊かな心を育むことが目的です。

ボランティア募集中!

これまでにもこんな活動もしています

- ◆流しそうめん大会
- ◆親子で焼き芋会
- ◆Halloween Parchee
- ◆家族対抗ボーリング大会
- ◆Christmas Parchee
- ◆Defiフェスティバル
BBQ/ドッジボール大会/大縄大会
水鉄砲サバゲー/海水浴/
手作り竿で海釣り体験 など
- ◆にじいろ子育てワールドカフェ
- ◆ハロウィンふれあいウォークinゆたか
- ◆豊地区文化祭 家族de模擬店 など

※クリスマスパーティー...西野さんのお子さんが口にした「パーティー」の呼び名が、そのままイベント名に

代表の筏(いかだ)洋介さん



N・P・Oのひとびと
-第2回-



事務局次長の山口和弘さん

NPOえちぜん

〒915-0071 福井県越前市府中1-2-3
センチュリープラザ1F
TEL:0778-22-6411
FAX: 同上
http://www2.ttn.ne.jp/~nptakefu/
nptakefu@hi.ttn.ne.jp

NPOに関わる『人』にフォーカスするこのコーナー。
2回目は、お隣、越前市で市民活動のサポートや、市民・行政・企業間の
「コーディネート」を幅広く行っている『NPO(のっほ)えちぜん』のお二人に
突撃取材を敢行!

丹南地域で「中間支援組織」の役割を担う者同士、(一部掲載不能なほど?)
「ティープな会話と時間が紡がれたのでした! ああ、くわばらくわばら(笑)」

『ボランティアとNPO』

「『NPOえちぜん』の立ち上げの
時から関わってたんですか?」

筏 平成13年に、まだ『武生市』だ
った頃、NPOの拠点施設が必要じゃ
ないかって動きがあった。

もちろん行政側からの働きかけがあり、
市内で活動してるボランティア団体や
市民活動団体の主なメンバーが集り調
査や討論して、政策提言しました。

その調査研究会のコアメンバーのひと
りだったこともあって、NPOの支援
施設のここ(越前市NPO市民活動交
流室)と一緒にうちの組織も立ち上げ
ったんですよ。

：僕はそんなご縁かな。

山口 筏は発起人のひとりなんでね。

自分は、会員団体の『越前市国際交流
協会』の事務局にいたんだけど、その
後『NPOえちぜん』の事務局に専従
で入って、相談業務とかサポートとか
してる感じ。

鯖江市さんは少し早めに交流センター

スタートさせてたから、立ち上げ準備
の時には、見学とかでよく邪魔して
ましたよ。

現場は、山口さんがひとり切り
盛りしてるって感じですよ?

筏 そう。できれば職員の増員もした
いけど、指定管理の契約相手の行政と
しては、予算とか色々事情があるみた
いで実現してないんだよ。

山口 決して行政だけじゃなくて、ま
だまだNPOとかは『ボランティア』
だけで成り立ってると思ってる人が多
くて、以前、そこそこの立場のある人に
「ボランティア団体の事務局はボラン
ティアだろ!」って断言されたことは
いまだに忘れられない。(苦笑)

筏 小さなサークルならそれでOKで
も、時には行政や企業とも渡り合おう
って組織では、それでは回らないと思
うよね。

去年取材させてもらった『日本N
POセンター』とかだと、資金的な基
盤がしっかりしてることもあってか、
職員さんたちも「プロ」としてバリバリ
動いてる感じでしたよ。

『リズムの違い』

「中間支援の仕事してて、一番心に
かけてることってなんですか?」

山口 そうねえ。

「リズムの違い」かな?

—リズム?

山口 NPO、行政、企業、それと、
自治振興会みたいな地縁組織だと、そ
れぞれの持っている『リズム』が違うか
ら、それをお互いにわかってほしいと
『協働』なんてできないよね。みた
いな。

「価値感や文化の違いとか?」

筏 例えば、行政だと、なかなかチャ
レンジングな方向に舵を切りづらい傾
向があるとか、地縁組織だと世代間の
交流が難しいとか:

地域差もあるだろうけど、それぞれの
立場で基盤になってる雰囲気とかが違
うから、自分たちだけのリズムや視点
で進めようとする相手と批判するば
っかりになったりとかさ。

山口 行政でよくあるのが、目に見え
る成果を、すぐ欲しがったり:あとは
自分の担当以外のエリアには首を突っ
込みづらいつかね。

逆に自治振興会とかだと、生活基盤と
一体化してる組織だから、もっと、ど
っしり構えてるみたいなのところもね。
要は、「みんな違って当たり前」って
ことを『理解』するのが大切。

：『納得』はしなくていいから。

筏 つまり『違う人たちが集まる』か
らこそ、今までに無かった発想が生ま
れたり、既存の枠から飛び超えた何か
が出来上がったりする。

グチャ批判も『思い』があるから出て
くる一種のエネルギーだと考えれば、
「違うから批判する」のじゃなくて、
「違うから尊重する」ってエネルギー
を、皆で共有していくために、僕ら
みたいな中間支援組織はあるんだらう
って思うんだよね。

「違うから批判する」のじゃなくて、
「違うから尊重する」ってエネルギー
を、皆で共有していくために、僕ら
みたいな中間支援組織はあるんだらう
って思うんだよね。

『対等と信頼』

「違うリズムの人が一緒にナニかし
ようと思うと、最後は、個々の『信頼
感』とかがキモになりませんか?」

山口 そうなの!

不思議なもので、相手が上から目線で
「こっちの言ってること、イイ加減に
しか聞いてないな」ってのは、みんな
ホントにすぐわかるんだわ。

—そうだったら、そこで終わっちゃ
いませんか?

山口 自分もねえ、心ない言葉で心が
折れちゃったこと何度かアルよ。

—NPOやボランティアの世界って
『コミュニケーション』と『モチベー
ションマネジメント』忘れたら成り立
たないですもんねえ。

筏 結局、お互いがお互いを『対等』
だと認め合うことで信頼感も生まれ
てくるんだと思う。

—特に『違うリズム』のメンバー間

ではってことですかね。

山口 なんとか協定書みたいなので
『対等の立場で』って文言がよくある
けど、アレ、思った以上に大切なんだ
よね、絶対!

『これからも...』

「あらためて思いましたけど、やっ
ぱり、もっと交流する場を持つべきで
すね。『えちぜん』と『さばえ』で。
山口 こんな話するんだったら、いく
らでも顔出しますよ☆

—NPOで大々的に集まって、『大
宴会&大グチり大会』でもしますか?
筏 いやあ。案外、とんでもなく面白
いアイデアとか出てくるかも!(笑)



結局、予定の時間の倍くらいをかけ
たインタビューとなりました。

微妙な地域性の違いも
感じながら、逆に、それ
ぞれの地域を拠点に活動
する支援組織として、同
じような喜びや課題も共
有できた今回の取材。

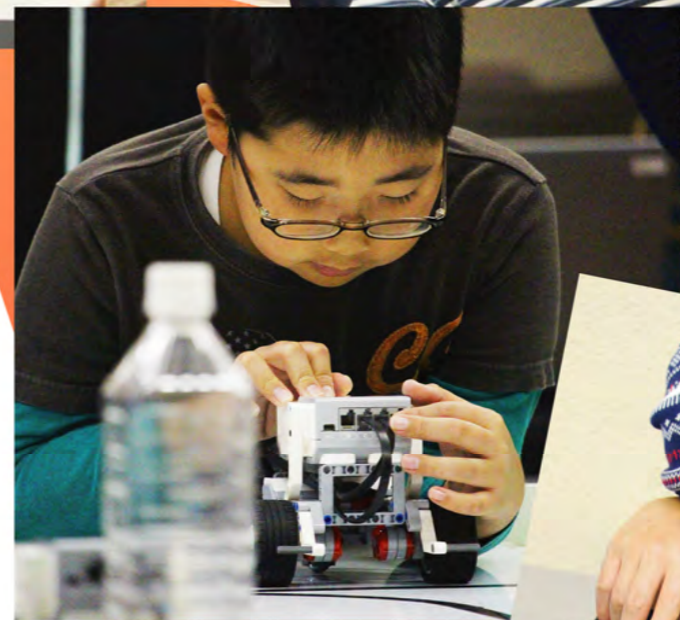
それぞれのリズムで、
今後も、お互い頑張っ
ていきたいと思います!!

▼『NPOえちぜん』が事務所をかまえる
JR武生駅前のセンチュリープラザ



科学の扉は

可能性の扉!!



▲これが組み立て&プログラムするロボット
今回は車輪を取りつけて自走式マシンに!

親子 ロボット体験教室
 主催：さばえ・ロボット・クラブ Robot Project
 日時：平成28年11月6日(日) 14時
 場所：鯖江市民活動交流センター

『ギジュツって楽しい!』

その日、さばえNPOセンターの大会議室では、子どもたちの歓声が響き渡っていました。

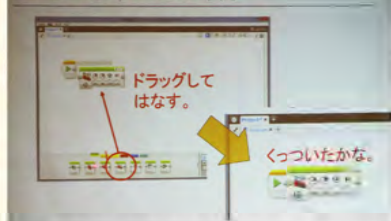
部屋の中央に置かれた『コース』を取り囲んだ11組の親子からは、自分たちで組み立て、プログラムを憶えさせたロボットを走らせる度、一喜一憂の熱気がほとばしります。

開かれているのは、組立型のロボットを使う『親子ロボット体験教室』。鯖江に拠点を置く『さばえ・ロボット・クラブ Robot Project』が主催する、最先端技術に楽しく触れることのできるイベントです。

『課題クリアに向かって』

ロボットの組み立てから、基礎的なプログラムの入力、そして、マシンの試験運転の後は、与えられた課題をクリアしながらのタイムトライアル!

6. プログラムのやり方



▲プログラムも数種類のアイコンをつなげてこしらえるシステム
超簡単なのに、プログラムの基礎的な考え方が、自然と身につく

それを2時間で見事にやりきってしまうことに、まずびっくり!
 教える側の上手さもさることながらやはり子どもたちの頭の柔らかさと学習能力に脱帽です。

この日の課題は、比較的簡単な『コース』をコの字型に走行し、その途中で2つの500ミリペットボトルにぶつかって倒すこと。

プログラムを憶えさせたら、コース上では一切の手出しは無用!

全てはロボット自身の「判断」で、スピード・方向転換・走行距離などをこなさなくてはなりません。

最後のトライアルでは、倒したペットボトルの数や、無事にゴールまでたどり着けたかでポイントをもらえ、ゴールまでのタイムも順位の判断材料になります。

何度も試走と再プログラミングをくり返し、着々とチューニングの完成度を高めていく子どもたち。一心不乱に試行錯誤と工夫を凝らす姿の後ろで、まるで大人の方がついていくのが精一杯のようにも見えてしまいます。

まさに、失敗することから新しい正解を見つけ出してゆく『小さな技術者たち』の様子に、ふと日本の将来への希望まで感じてしまいそう。

え?...結局みんなは満足してたのかって?

それは、この表情を見ていただいたらおわかりでしょう?(笑)

ロボット

まるごとプロジェクト

体験教室では、ボランティアの若い“指導者”たちと一緒に参加者のテーブルをまわる▼



さばえ・ロボット・クラブ
Roboject

教育 文化 その他

工業用のものはもちろん、最近では介護施設や家庭用のロボットまで普及しつつある現代。

一方で『A-I』（人工知能）も、将棋や囲碁のプロを倒したニュースだけでなく、「人間の仕事がA-Iに奪われるかも」なんてことが本気で心配されるくらい飛躍的に進化しています。

でも、今の子どもたちには、それも『普通』のよう。スピーディに進歩する世界と一緒に育つ、そんな子どもたちのために、組み立て式のロボットを通じて、楽しい“最先端技術”との触れ合いの場を提供してくれる団体が鯖江にあります。

インタビュアーに伝えてくれたのは、代表の塚崎勝訓さん。眼鏡の奥には、少しおちゃめっぽい眼差しがキラキラしています。

『親子で世界大会へ！』

「団体立ち上げのきっかけは、どんな感じだったんでしょう？」

塚崎 私の子どもが友達とチームを組んでロボコンの小学生版の大会に出場したことがありまして、そのコーチを私がしていました。

それを何年かやっていた間に世界大会まで行ったことがあって、「せっかくそこまで行ったのに内輪だけでやっているのはもったいない！」って思うようになったんですね。

それで、地域の子供たちに教えていけたらいいなあって考えたのがきっかけでした。

ロボット教室なので機材やパソコンは

必須なんですけど、資金や置き場のこともあって、最初から揃えたりはなかなか出来ませんでした。

嶺南に似た教室があったので、そこで講師という形で始めたのが、ある意味はじまりでした。

その後、行政で使わなくなった中古のパソコンを手に入れたり、機材置き場の交渉をしたりして、本当にたくさんの方のご協力を頂きながら、2年前にさばえNPOセンターで本格的に教室をスタートさせたんです。

『ダブリュー・オール・オー』

「世界大会はスゴいですね。そのロボコンについて教えてもらえますか？」

塚崎 ロボコンと言うと『高専ロボコン』が有名ですが、私達が取り組んでいるのはWROという自律型ロボットによる国際的なコンテストです。

「『自律型』ってことは、コントロ

ーラーで操作するんじゃないってことですね？

塚崎 そうです。あらかじめ本体にプログラムした内容を基に、ロボットが「自ら判断」しながら競技に参加するのですが、WROのスタイルです。

世界大会には何百カ国も参加するんですが、福井県では福井工大さんが数年前から取り組んでいて、福井県予選も毎年開催しています。

「教室の参加者は、全員そのWROを目指して？」

塚崎 いえいえ。うちの場合『体験教室』『初級教室』『エキスパートコース』と3段階あって、『体験教室』では、まずロボットやプログラムに触れて楽しむことを大切にしているので、興味さえあれば、誰でも気軽に参加OKですよ。（10〜11ページの記事を参照）

『エキスパートコース』だと、最終的には友達とチームを組んで、WROロボコンに参加しますが、いろいろある世代カテゴリーの中でも、私たちは小学生の高学年を対象に教室を開いています。



ロボットの話しになると、笑顔の絶えない塚崎さん

『組み立てればOK！』

「……ただ、正直『プログラム』って聞いただけで、ハードルが高そうな気がしますけど……？」

塚崎 あ、ぜんぜん大丈夫です！（笑）プログラムって言っても、難しい呪文みたいなものを打つわけじゃなくて、パソコンの画面で、簡単な指令の『アイコン』を並べていくだけで出来上がっていく形なんです。

ロボット本体と同じで、ブロックを組み立てていけばOKなんです。子どもたちは頭が柔らかくて、少し教えてあげると、どんどん吸収して自分たちで出来るようになっていきます。

「あ、ブロックって言えば、このロボットの機材一式、あの『LEGO』の製品なんですよ？」



▲組み立て前のキット
これがロボットとの最初の出会いに

塚崎 そうなんです。

WROで使うのと同じ『LEGOマイクンドストームEV3』って機材を使っ

ています。センサーやモーターや、様々な拡張パーツを組み込むことで、いろんな動作が出来るようになっていくから、大人でもワクワクしますよ。

「ああ、ホントだ。これ絶対面白いわ！……パーツを組み合わせて自分だけのロボット作るなんてハマりそう！！」
大人版の教室とかあったら絶対参加したい……っていうか、これ、買いたくない……やあ……ああ……でも、基本セットで数万……コレは、奥さんに相談しないとムリか……（涙）

塚崎 教室に親子で参加したら、お父さんが楽しくなって、どんだんのめり込んでいくって光景は、実はよくありますね。（笑）

「わかります！……でも、自分で買わなくても、塚崎さんの教室に参加すれば、手頃な参加料でこの楽しみを経験できるっていうのがいいですよ！」

塚崎 もし、そんな風にして、子どもたちの可能性や才能が開花するとしたら、ホントに嬉しいですね☆

その屈託のない笑顔を見れば、なぜこの活動をしているかが伝わります。

いつの日か、教室の参加者から素晴らしい技術者が生まれることが夢だと語ってくれた塚崎さん。

自分で考え工夫して、目標を達成する楽しさが伝われば、いつの日か、世界を牽引するスゴい技術者やプログラマーが『Roboject』から生まれるのも夢ではなさそうです！

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内

http://sabarobo.jimdo.com/
sabarobo2015@yahoo.co.jp

正会員募集中!

ボランティア募集中!

◎活動目的
最新の科学技術に直接触れることが出来るロボット教室を通じて、子どもの理科離れの解消を目的に活動しています。

◆ロボット作りを通じた教育活動
(ロボット教室の開催)
親子参加型のロボット教室を通じ、科学技術への関心を高め、将来のものづくりを担う子供たちを育成。

◆教育的ロボット競技会への参加支援
文部科学省・経済産業省が後援しているロボットコンテスト (WRO: World Robot Olympiad) への出場を目指すチームへの指導・支援。

◆他地域のロボット講習会への講師派遣
本団体と類似の活動を行っている他団体へ講師を派遣し、科学技術に関心ある児童の裾野を拡大。

ゆるく、楽しく、たのもしく。

◀◀ 体育館に出現した“巨大”新聞ドーム！
ビニール袋と新聞紙を材料に、自分たちがこしらえた異空間の中で、笑顔のピースサイン☆(H28.11.27.)
写真提供：鯖江市子ども会育成連絡協議会



鯖江市子ども会
育成連絡協議会

まちづくり 教育 福祉 文化

「こんにちは！」明るくハキハキした声で迎えてくれたのは、鯖江市子ども会育成連絡協議会、会長の竹内香代子さん。
笑顔で流れるように語られたお話には、子どもたちへの信頼と希望があふれていました。

『子ども会』と聞くと、小さい時にクリスマスパーティーや小旅行などに参加したことを思い出しませんか？
『鯖江市子ども会育成連絡協議会』は、市内各地域の「子ども会」を支援する活動をしています。

『子どもたちが自分で企画』

大人が企画＆運営し、子どもたちがそれに「乗る」形が多かったこれまでの子ども会ですが、平成20年の会の立ち上げ時から、竹内さんたちは、あるこだわりを持っていたそうです。
「うちの協議会は、できるだけ子どもたちが自身が、企画運営をしていく会にしたいなって。」
プログラムを考えたり、イベントの進行してる時の子どもたちは、本当に楽しそうなの。」

子ども会は子どもたちが育つ場所。だからこそ『子どもたちの手による子ども会』のスタイルを基本に据えているのです。

『任せてこそその責任感』

子ども主体ですから、もちろん失敗

もあります。

「でも私は失敗してもいいと思ってるし、子ども達にも『失敗してもいいんやよ』って言ってます。」

失敗は必ず次に生かす課題として、子どもたちが身に付けていって、大切なことなのかなって。」

もしかすると、失敗した子どもを強く叱ってしまう大人こそ、必要以上に失敗を恐れているのかもしれない。

もちろん、ケガや命に関わるような失敗は防がなくてはいいけれども、大人が口に出す前に、子どもたち自身がイベントの危険予測をするようになってきて、なんとも頼もしい限り。

「子どもは任されたことの責任はしっかり持ってってくれる。グループ(班)ごとの発表の場でも、班長が都合で帰っちゃったら、当然みたいな顔で副班長が代わりに発表したりしてね。」

役割分担や責任のことを、ちゃんと自分たちで考えているのよね。」

マニュアルやルールを守ることだけでは自主性や責任感が身につかないのは大人も同じこと。自由に自分たちの企画・運営するからこそ、それぞれのルールの『意味』を考えて、責任感も育っていくのかもしれない。

『ゆるく、楽しく』

『鯖江市子ども会育成連絡協議会』を核にして活動しているのは、小学5～6年生の『子ども会リーダー』に、中高生生の『ジュニアリーダー』、そして「育成者」とも呼ばれる大人たち。ただ、今の時代、大人も子どもも、本当に忙しい！

「例えば一つの活動があっても、全部参加することが難しい時、それが理由で参加できないんじゃ、せっかくの学びの場がなくなってしまうでしょ。だから鯖江では、出られる時、出られる時間だけの参加で大丈夫。ゆるく、楽しくが大切だと思う。」

中高生のジュニアリーダーも、学業・部活動が最優先で、子ども会は最後で良いと思っています。」

この自由な参加の仕方は「育成者」も同じで、学校の元校長先生やPTA関係者など、様々な個性と才能を持った大人たちが、可能な時間を子どもたちとともに過ごしています。

無理をし過ぎず『やらされ感』の少ない活動だからこそ、会としての一体感や充実感もありそうです。

「うちの会では、大人こそ、子どもたちから沢山のことを教えてもらってます。だから私たちも楽しいの。」

『管理』『指導』といったものとは全く別の絆があることが、その言葉からも十分伝わって来ました。



▲明るいオーラ全開の竹内会長

『もつひとつの居場所 もつひとつの顔』

会の活動を目にして、生き生きと輝く子どもたちの様子に、驚きを隠せない保護者や学校の先生も多いとか。

「この会は子どもにとっての居場所、心の拠り所なんですよ。だから、子どもたちは、家庭や学校での姿とは違う姿を見せてくれるみたい。」

『格差』『貧困』『いじめ』『虐待』：子どもたちを取りまく環境には、課題や問題が顔を出すこともあるでしょう。

実際、学校に行けなくても、子ども会の活動には参加してくれる子もいるそうです。

「ここが、その子にとって大切な『居場所』なんだと思うと、いろんな意味で心に響いてきてね。」

また、保護者からの相談を持ちかけられることもあるそうです。「親も、悩みながら子育てしてるんだなって。」

『チャンスと愛情』

「当たり前なことだけど、子ども達にとって必要なのは、まずは親の愛情だし、地域社会のぬくもりでしょう。」

家庭・学校・地域・行政が連携を取って、いろんな可能性を秘めている子どもたちに、沢山のチャンスと愛情を用意してあげたい。」

会の活動の中で、親と子、先生と児童、先輩と後輩、大人と子ども：それぞれがお互いに見守り合い、認め合う経験をしています。本物の『達成感』や『自己肯定感』は、そんな関係の中から芽生えてくるもの。

それは子どもだけに限らず、大人たちも手にできる、地域の宝物でもあるでしょう。

会の活動が、笑顔のあふれる鯖江を創るきっかけとなり、鯖江を愛する子ども・大人が育ち、生活する助けになってくれればと話す竹内会長の満面の笑みに、人間と地域に対するあふれる愛を感じました。



▲子どもたちの企画で手作りした可愛い『スノードーム』

「失敗してもいいんやよ☆」
心強い言葉で背中を押してもらった子どもたち。未来の鯖江のリーダーたちが、必ずこの中から出てきてくれるですね。会長！！

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内
TEL: 0778-52-1941
FAX: 同上

基本
正会員募集中!

基本
ボランティア募集中!

- 代表者…竹内 香代子
- 活動開始…2008年1月18日
- 正会員数…46名(2017年2月現在)
- 賛助会員…なし

◎活動目的
子どもたち自身が企画・運営し、地域を基盤として活動する子ども会を支援していくことを目的としています。

ワークライフバランスを考える異文化交流会

鯖江じゃぶりーだけど オーストラリアじゃ どう?

日時: 6月29日(水) 19:00~20:30
場所: 鯖江市民活動交流センター

お申し込み方法は別冊で

【2016. 6. 29(水)】
〈ワークライフバランスを考える異文化交流会〉

夏の親子企画!!

夜のえんそく♪

夏の星空を見に行こう☆

開催日時: 8月6日(土) 19:30~
7日(日) 8:00~8:07
集合場所: さばえNPOセンター

お申し込み方法は別冊で

【2016. 8. 6~7(土・日)】〈夜のえんそく♪〉

春の親子企画

たけのご掘り体験

開催日: 4月24日(日) *小雨決行
時間: 8:30~14:30
集合場所: さばえNPOセンター

お申し込み方法は別冊で

【2016. 4. 24(日)】〈たけのご掘り体験〉

チラシ&ポスターで振り返る さばえNPOサポートの平成28年度

『OSANPO』を発行している「さばえNPOサポート」は、今年度もいろいろな事業や活動をしてきました。その記録を、チラシやポスターで振り返ります。

【2016. 5. 26(木)】
指定管理業務に関する会計講座
【2016. 9. 21(水)】
イベント等の実施に関する法律講座

「主催」「共催」「落とし穴」満載!?

イベント等の実施に関する法律講座

9月21日(水) 19:30~21:00

会場: さばえNPOセンター 大会議室
参加費: 500円
講師: 弁護士 佐藤 孝一氏
(旧口崎合法律事務所 鯖江支部 支部長)

お申し込み方法は別冊で

「複式簿記」「利益相反」わかってる?

指定管理業務に関する会計講座

5月26日(木) 14:00~15:30

会場: さばえNPOセンター 大会議室
参加費: 無料
講師: 税理士 葛城 浩之氏
(税理士法人 民生中央会計)

お申し込み方法は別冊で



NPOや市民活動団体の法令遵守が重要視される中、行政との協働で各種講座を開催。この他、8月30日(火)には「指定管理業務に関する法律講座」も行われました。

チラシづくりを通してわかる

『百戦あやうからず』の アピール講座

2月21日(火) 19:00~21:00
鯖江市民活動交流センター 大会議室にて
参加無料

お申し込み方法は別冊で

【2017. 2. 21(火)】
NPO広報&プレゼン講座
〈『百戦あやうからず』のアピール講座〉

鳥型凧を飛ばそう!

今年、とり年。赤い鳥、青い鳥、虹色の鳥!? みんなどんな鳥が飛んでいるとスリキススと思うかな? 2017年大空に鳥型の凧を飛ばそう!

2月19日(日) 10:00~15:00
会場: さばえNPOセンター
参加費: 子供400円 大人600円

お申し込み方法は別冊で

【2017. 2. 19(日)】〈鳥型凧を飛ばそう!〉

夏の親子企画

夜のえんそく♪

夏の星空を見に行こう☆

8/6(土)19:30~
8/7(日)8:00

お申し込み方法は別冊で

〈夜のえんそく♪〉ポスターVer.

提案型市民役事業 ~鯖江地区 市民まちづくり応援養成講座~

ヒストリーポスター

「れぞし」を活かして みんなで創りなすまちづくり!

会場: 鯖江公民館(全5回)
参加費無料

お申し込み方法は別冊で

提案型市民役事業 ~神明地区 市民まちづくり応援養成講座~

『楽しいめいプロジェクト』を作ってみよう!

まちを楽しめ! 仲間を楽しめ!

お申し込み方法は別冊で

〈市民まちづくり応援養成講座〉
(提案型市民役事業)

【2016. 10. 18(火)~】
神明地区(全5回)

【2017. 1. 25(水)~】
鯖江地区(全5回)



〈協力事業(チラシ作成などを担当)〉

※サバーンとアセリアンは、鯖江市の交通安全事業で活躍している、オリジナルキャラクターです。

コンテスト2016

電腦メガネ

大募集!!

10月31日(日)

お申し込み方法は別冊で

みんなでおぼえよう!!

サバーンの おやくそくたいそう

お申し込み方法は別冊で

【2016. 10. 31(月)締切】
〈電腦メガネコンテスト2016 ども部門〉

【2016. 9. 25(日)~】
〈サバーンのおやくそく体操普及プロジェクト〉

さばえNPOサポートでは、ここでご紹介した以外にも、たくさんの方の事業に関わってきました。今後とも、ぜひ応援をお願いします!!



【2016. 6. 25(土)】
〈「さつ神さまプロジェクト」紙バックでベルマーク & 仕分けの仕方を啓発〉
※さばえ環境フェア2016会場にて



『紙バック』の仕分け体験で

スタンプゲート!!

仕分けゲームを体験すると、スタンプラリーのハンコがもらえます☆

ルールはカンタン! 渡された『紙バック』のタバを

- ベルマーク
- 雑誌(ざつがみ)
- もやすゴミ

それぞれのトレーに、シワケするだけです!! スタートしたいヒトは、スタッフになってね☆

『紙バック』の仕分けかた

たったの3ステップ

- ①バックを開いて、洗って、乾かす。
- ②「テトラパック」のマークがあるかどうかをチェック!
【ある】→ベルマーク
※学校や、さばえNPOセンターへ
- 【ない】→③へ
- ③内側が「銀色」かどうかをチェック!
【白色】→雑誌(ざつがみ)
※資源回収や、さばえNPOセンターへ
- 【銀色】→もやすゴミ

団体さんへの取材が一段落した、まだ寒い季節の週末の夜、ポケットマネーを持ち寄つての、恒例「編集後記座談会」が開催されました。

お鍋をつつきながら『OSANPO』にまつわる様々な思いを語り合うという趣向のこの会。

…つて、ちよつと！ 具材にカニがあるよ〜っ！

果たして『黙々と食ふ続けて編集後記の文字数が足りない』なんて恐ろしい事態は回避できるのか？！



☆6年目の功罪？

- A 『OSANPO』もいよいよ6歩目が刊行と言うことで、皆さん取材や原稿作成そして編集、お疲れさまでした。
- C 今回の発行に際して、全体的にどうでしたか。
- B 今号は、子どもさん関係の記事が多めでしたよね？
- D あ、なるほど。
- C 事業や団体さんの切り口は様々なんだけど、子どもさんの可能性を広げるって意味では同じだから、そういう記事をまとめて読めるのも面白かったですよ。
- A ひとつのものをいろんな角度から眺められた感じで。
- B うんうん。
- A 他に、一年の大きな動きとしてはどうでした？
- B 紹介団体の選定や取材の日程調整そして取材と原稿作成…大筋の段取りは変わらないですからね。
- C 実際、6回目ともなれば、慣れもあります。
- A その分、もしかすると精神的に緩みがあったのかなあ〜…
- C スケジュール的には、今回が一番キツかったかも…
- B 正直、疲れも出てない？
- A いつまで続けて行くんだろう？…って。
- C 確かに。

そのあたりは、今年度の『サポートOSANPO地獄』の記事を読んでいただければ！

☆疲れは万病のもと

- D 疲弊感で、NPOにとっては一番怖くて厄介な問題かもですね。
- C 営利事業として発行物を出す場合は、いろんな意味で実利が伴ってくるから、継続して行く理由はあるからねえ。
- D ボランティアでやっていく理由は、皆さんから評価をいただいたり、自分自身の満足感・充実感とか、達成感とかが一番大切かもしれないですよ。
- A 自分自身、確かに『出発号』が出来上がった時には、すごく達成感と充実感があったけれど、”歩数”を重ねるごとに薄くなってきているのは否定できないかも…
- B 自分は比較的、取材先の団体さんからも、市民の読者さんからも、直接反応をいただきやすい位置にいるもんだから、モチベーションは継続しやすいかもしれない。
- A それを、もっと委員の皆さんと共有できればイイんだけどなあ〜…なんだか申し訳ない！
- C 前に聞いた話だけど「客が入り易いと思う店は、出易そうな店だ」

☆役割の意味

- C 前にも聞いた話だけど「客が入り易いと思う店は、出易そうな店だ」
- C そのためツールとして『OSANPO』が役立っているとありがたいね。
- A 他全員 ですね☆
- C 誌面のことだけにとどまらず、ボランティアやNPO活動への参加のあり方まで話題に上った今回の座談会。
- A 『OSANPO』を創り上げることが、皆さんの団体と接する機会の多い事業だけに、いろんなヒントを目にすることも多いのかもしれない。
- C 『6歩目』には、皆さんの役に立つような…あるいは、心を刺激するような
- D な記事はありませんか？
- C もしひとつでもそんなページを見つけてくださったなら、スタッフとしてそれに勝る喜びはありません。
- A そしてまた、そんな我々にエネルギーを吹き込んでいたくれたためにも、ポジティブなものであれ、ネガティブなものであれば幸いです。
- C とりあえず、カニに負けず十分な文字数を確保できたことに感謝しつつ…ぜひ、また次号で☆

- ってね。NPOについても『入り易くて出易い』『いつでも気が向いた時に行ける』みたいな気安さが必要なんじゃないかな。
- B 確かに。でも『できる事を、できる時に、できる範囲で』となると、事業の安定性に弱さが…
- C かなり大きな分野が必要ってことになっちゃいますよね？
- D NPOの事業だと、例えばイベント当日のお手伝いをお願いするのなら、人の入れ替わりは可能ですが、企画や、専門のスキルが必要な部分だと、人の入れ替わりで大変なことになっちゃうこともありますよ。
- B その意味では、『核』になる人は必要なんだろうな。
- C もちろん、当日だけのお手伝いの人でも、きちんとその役割の重要性や楽しさを感じてもらうことが「また次も」ってつながりになるんじゃないかな。
- E 私も、取材や原稿の中で、何か自分なりの達成感を感じてるから、広報委員が続いてるんだと思います。確かに広報メディア作るのって、クリエイティブなのは間違いないからなあ。何か創るのが好きな人だと、それだけで理由にはなるね。逆に、単純作業的なボランティアだと魅力を感じづらいつてこと？
- C それも、これも聞いた話だけだ…当日運営ボランティアに来てくださった方に、駐車場案内係や誘導
- A 係をお願いする時、「あなたたちは、来場されるお客さまと最初、また帰る際には最後に接触できるスタッフです。どんなことをしてお客さまに接しますか？」と事前にお客さまに接したら、ある人は「クイズを大きな段ボールに書いて、来場者の注意を引いた」とか、別の人は「矢印マークの被り物を作って頭にかぶって道案内した」みたいなことがあったんだって。
- E そんな発想ができること自体、すごい才能ですね☆
- C そうそう。
- D でも主催者側が、お願いする役割の重要性をちゃんと説明して共有できれば、そんな『面白さ』も見つけてもらえるってヒントでもあるよね。
- C そういう工夫ができればもちろん素晴らしいですけど、せめて、メインのスタッフから、お手伝いいただいた皆さんに、しっかり感謝の気持ち伝えることだけは最低限させていたただかないとダメですよな。
- B そこが『コミュニケーション』の大切さってことだよなあ…
- A 反省反省。
- C まあ、何にしても、NPO的な裾野を広げるためにも、持続的に関わってくれる皆さんを増やすためにも、より多くの人たちにNPOのことに興味を持ってもらうことが大切！



広報メンバー募集!!

あなたもいっしょに『OSANPO』を作りませんか？

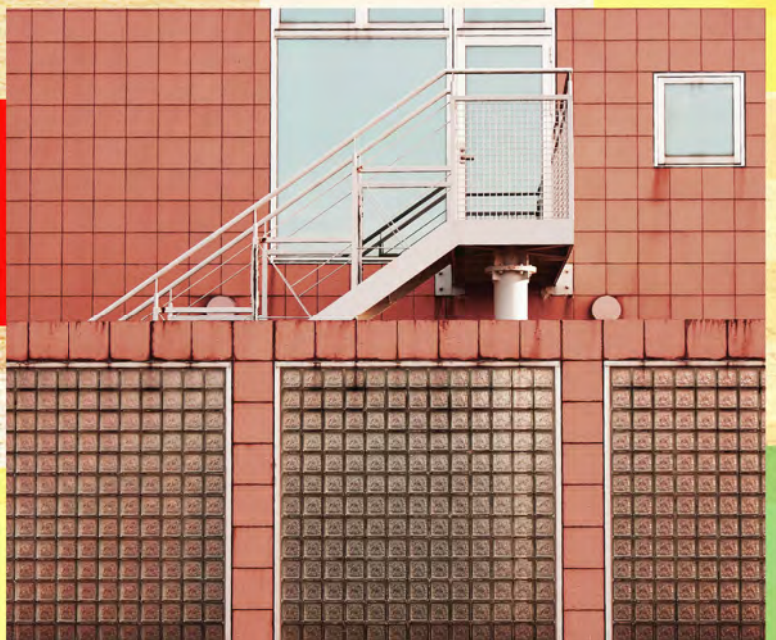
人とお話しするのが好きな方、文章を書くのが好きな方、デザインやイラスト作成が好きな方など、ぜひお気軽に事務局までご連絡ください。お待ちしております！

【ご連絡先】
 ■さばえNPOサポート事務局
 TEL: 0778 (54) 7055
 Eメール: info@sabae-npo.org





『OSANPO』では、これからも鯖江の市民活動団体さんを、どんどん掲載させていただきたいと思っています。「ぜひ、私たちのことも取材して!」という団体の皆さんは、さばえNPOサポートまでご一報下さい。



『OSANPO～6歩目～』

- 2017年3月 初版発行
- 発行人：広報委員会
- 発行所：認定特定非営利活動法人
さばえNPOサポート
福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058
E-mail : info@sabae-npo.org
- <http://sabae-npo.org/>